

国鉄新聞

港区新橋5-15-5
国鉄労働組合中央本部
☎03-5403-1640
発行人 宮崎浩則
編集責任者 瀧口良二
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

月間白話
6・11 日本学術会議法人
6・12 インド旅客機が住宅地に墜落、死者274人
6・14 イスラエルがイラン核施設などを一斉攻撃、イランも報復攻撃繰り返す▽トランプ米大統領誕生日に65億円の規模軍事パレード、全米各地で抗議デモ

6・17 G7サミットは米会閉会、企業・団体献金の見直しは進まず、選択的夫婦別姓法案はさらに先送り
6・21 米軍がイラン核施設を空爆、トランプ大統領は「完全に破壊」と誇示▽
6・22 東京都議選は裏金問題で批判を浴びた自民党が大敗▽第217回通常国会閉会、企業・団体献金の見直しは進まず、選択的夫婦別姓法案はさらに先送り
6・23 80年目の「沖繩慰霊の日」▽イスラエルとイランが停戦合意と米国発表
7・3 参院選が公示、事実上の「政権選択」へ▽米下院で大型減税法案が可決

復帰53年第48回5・15沖繩平和行進

体験学習を継続しつつその学びを共有していく

復帰53年第48回5・15沖繩平和行進が5月16日から5月17日にかけて開催され、国労から4名が参加した。県や地域からも国労組合員の参加があった。



次世代を担うJR採用の参加者一同

16日に開催された5・15平和行進実行委員会、沖繩平和運動センター、フォーラム平和・人権・環境の共催による全国結団式(那覇市・那覇文化芸術劇場は1と大劇場)には全国から約800人が結

集し開催された。基調講演では、対馬丸記念館館長の平良次子氏から「戦争の実相から平和を創る」と題して、平和学習事業の取組についての報告を受け、平和学習の実情と重要性を学んだ。

続いて、主催あいさつ、共催あいさつを受け、韓国からのゲスト紹介を経て、平和行進団正副団長・本土代表からの決意表明を受け、すべての戦争を終わらせる、戦争をさせない、戦争に協力しない、新基地を止める、新軍港は作らせない、南西諸島を軍事要塞化させない思いで行進することを確認し、団結がんばろうで結団式を締めた。

17日の沖繩平和行進は、読谷村役場からスタートする嘉手納基地コースと、嘉数高台公園からスタートする普天間基地コースの2つのコースに分かれ、県民大会が開催される北谷町のAgresteスタジアム北谷をまで行進した。参加者は両コース合わせて約2000人が参加する大行進団となった。

持ちきれぬ現実に、為政者たちは無責任である。小さな声は掻き消され、机の数字が現実であると錯覚させる。沖繩平和行進に参加しました。約1年ぶりに訪れた、沖繩はとも暑く、突然の真夏に、流石だと思わざるを得ま

国労は嘉手納基地コースへ参加し、基地の中に街があり、その頭上を戦闘機が飛び、でいく異常な光景を目の当たりにしつつ、シユプレヒコールをあげながら基地のない沖繩、平和な世界の創造を訴えてきた。途中、妨害行為もあったが、毅然とした態度で残ったままで、米兵による事件や事故が後をたたく、我々は蔑ろにされているのだ、と現実が突き刺さっています。翌日は、基地周辺を約2000名が行進しました。基地は静まりかえり、何もな

3日目は、ひめゆり資料館へ行きました。防空壕の中で突然の解散命令、米兵が迫る中での脱出、諦めて命を断つ学友、一緒になって頑張ってきた大人たちの無責任さへの憤りなどの話がありました。学生や子供がかわいそうとうけれど、使えるものはなんでも使うのが戦争であり、使わせないようにしなければならぬ。なぜ、それができなかったのか？

私たちは考えなければ、過去の声を未来へ継ぐことはできないでしょう。机の数字は、為政者を感嘆し、一人の声を掻き消していきます。一人の声は、とても小さいけれど、団結すれば大きな声となり、為政者を戒められます。小さな声を集めること、その最小単位は労働組合であり、組織を強化していくことは、平和への力になります。平和を守るため、国鉄労働組合は最後まで闘うのだと。

7月20日に投票が行われた第27回参議院議員通常選挙は125の議席をめぐって争われ、与党である自民・公明両党は過半数の議席を維持できず、衆議院に続き参議院でも少数与党になった。自民党を中心とした政権が衆参両院で過半数を割り込むのは1955年の結党以来、初めてのことである。今回の選挙区の投票率は、58・51%と、前回の選挙より6・46%高くなり、有権者の関心が高かったことを示している。欧州で右翼政党が議席を伸ばしているのと同様に、今回の選挙で自民党の補完勢力や、外国人への差別を売り物にする排外主義・極右的潮流が議席と得票を伸ばさせるという結果に危惧を覚える。立憲民主党は改選議席の22議席を確保したが、国労の国土交通省要請行動などお世話になっている森屋隆さんは、比例区で立候補したが落選となってしまう。共産党は改選議席の7を下回る3議席にとどまり、非改選の議席を合わせても7議席となり、参議院では単独で法案を提出することができなくなつた。社民党は比例代表で2%を超える得票率を得、公職選挙法上の政党要件を維持することになったが、非正規雇用労働者の生の声を国会に届けるべく、全労協が支持した大橋ゆうこさんも、比例区で立候補したが落選となつてしまった。石破総理は統投の意向だが、衆参両院で過半数を失い、政権運営はますます厳しくなる見通しだ。歴史の転換点になるかもしれない今を、国労はどう進むのか。(瀧

九州本部は、6月6日・7日の2日間で「九州本部平和学習会」を開催しました。長崎に原子爆弾が投下され被爆80年という節目とあって、長崎地区での開催としました。両日とも、浦上駅前13時に集合して行動を行い、6日の参加は42名で、西日本本部から4名の参加と家族会や他労組(2名)も参加しました。7日は8名の参加で両日併せて50名の参加でした。

国労九州本部 平和学習・組織拡大対策会議開催

6日に参加者が集中したため、全員で慰霊碑に参拝した後、4班に分かれて平和公園、爆心地公園、一本柱鳥居を見学。浦上駅から道ノ尾駅に移動して原爆救援列車モニュ



慰霊碑前にて(会議参加者一同)

メントを見学しました。各班的責任者を地元長崎地区本部が行い、各行先で詳しく説明を頂きました。原爆投下からわずか3時間後には救援列車を走らせ、計4本の救援列車で3500人の被爆者を救済したなど、初めて知った内容もあって大変勉強になりました。あらためて核兵器の恐ろしさ、平和の尊さを考えさせられました。

また、6月7日10時より、長崎出島メッセにおいて九州本部組織拡大対策会議を開催しました。この会議には、本部長岩元書記長と西日本本部から4名の参加を頂きました。岩元書記長から、この間の



国労本部HP QRコード

7月20日に投票が行われた第27回参議院議員通常選挙は125の議席をめぐって争われ、与党である自民・公明両党は過半数の議席を維持できず、衆議院に続き参議院でも少数与党になった。自民党を中心とした政権が衆参両院で過半数を割り込むのは1955年の結党以来、初めてのことである。今回の選挙区の投票率は、58・51%と、前回の選挙より6・46%高くなり、有権者の関心が高かったことを示している。欧州で右翼政党が議席を伸ばしているのと同様に、今回の選挙で自民党の補完勢力や、外国人への差別を売り物にする排外主義・極右的潮流が議席と得票を伸ばさせるという結果に危惧を覚える。立憲民主党は改選議席の22議席を確保したが、国労の国土交通省要請行動などお世話になっている森屋隆さんは、比例区で立候補したが落選となってしまう。共産党は改選議席の7を下回る3議席にとどまり、非改選の議席を合わせても7議席となり、参議院では単独で法案を提出することができなくなつた。社民党は比例代表で2%を超える得票率を得、公職選挙法上の政党要件を維持することになったが、非正規雇用労働者の生の声を国会に届けるべく、全労協が支持した大橋ゆうこさんも、比例区で立候補したが落選となつてしまった。石破総理は統投の意向だが、衆参両院で過半数を失い、政権運営はますます厳しくなる見通しだ。歴史の転換点になるかもしれない今を、国労はどう進むのか。(瀧

被爆80年国鉄労働組合視察学習 交流会に参加して(その3)

長崎の地において4月13日〜14日で開催された『被爆80年国鉄労働組合視察学習交流会』の感想文を紹介いたします。
第3弾の今回は北海道・東海・西日本エリア本部11名の感想文を紹介する。

北海道エリア本部

過去を学び未来に向けて 何を伝えていくのか

北海道本部書記長 菊地 宏之

このたびの視察学習交流会では、被爆体験の継承と平和の重要性について、さまざまな角度から学ぶことができ、大変有意義な機会となりました。

1日目、一本目の講演では、平和活動支援センターの平野所長より、被爆体験者が高齢化により世を去る中で、その貴重な証言をどのように継承していくかという課題についてお話がありました。特に、いわゆる「国外被爆者」の問題にも触れられ、これまであまり意識してこなかった視点から深く考えさせられました。



慰霊碑に献花する北海道エリア菊地書記長

2日目は、国鉄原爆死没者慰霊碑への参拝と献花を行いました。さらに原爆遺稿および長崎原爆資料館を見学しました。

今回の視察学習交流会を通じて、過去を学ぶことの意味そして未来に向けて何を伝えていくべきかということを深く考えることができました。今後も、自分自身の立場からできることを一つひとつ実践していきたいと考えています。

東海エリア本部

一瞬で町を破壊してしまっ 原爆の使用を絶対許さない

新幹線地方本部書記長 竹井 陽一

今回の交流会に参加させて頂いた事に感謝致します。今回の交流会を通じて、改めて原爆の恐ろしさを痛感しました。また原爆を、戦争を理由にした実験として、広島・長崎に投下したアメリカ力に対する非人道的なおこないに強い憤りを感じました。

原爆の被害者の支援をするにあたって、様々な形で大変多くの方が関わっている事に感銘を受けました。特に、様々な学校の違いがある中で、高校生の長年に渡りボランティアとして被爆者への献身的な活動を聞き感銘を受けました。



被爆当時の地層を見る新幹線地本竹井書記長(手前)

また、2日目の遺構めぐりでは、鳥居跡を始め原爆資料館まで、どれも目に焼きつく内容ばかりでした。一瞬にして町を破壊してしま...

西日本エリア本部

核兵器廃絶・恒久平和の為に 力を合わせよう

西日本エリア本部執行委員長 植田 重信

被爆80年視察学習交流会に参加して、被爆者協議会、平和講演、そして高校生平和大使みなさんの取り組みなど、講演・お話を聞き学ばして頂きました。

『私たちに出来ることは何なのか』と平和活動・運動の取り組み方について話された事が印象に残っています。『自分のできることを一つひとつ実践していきたくて考えています。』



慰霊碑に献花する西日本エリア植田委員長

『核抑止』『武力』で平和は守れない』『核と人類は共存できない』ことは明らかです。核兵器廃絶・恒久平和の為に力を合わせ、全世界に広げなければいけません。

命の大切さを学び、助け合う 大切さを今後も訴えていこう

西日本エリア本部書記長 大北 真也

長崎の地へは青年部での平和学習で数回訪れてきましたので、思い出するような感じでした。

1日目の講演が3本ある中で、平和運動センターを立ち上げた平和活動支援センターの平野伸人所長の話では、過...



慰霊碑前の西日本エリア大北書記長(左から6番目)

動して作っていくようなもので、微力だけれど無力ではないというのがその通りだと思...

講演2本目の池田章子長崎市長の話では共感できるものがありました。福島原発事故でも保証の対象が道路挟んで遠くなどもあり、被災者から聞いていた話と一致して聞き込んでいました。

生前に戦争体験を聞いて おくべきだったと後悔している

西日本エリア本部執行委員長 波見 健一

初日は3人の方からの講演と、報告がありました。

まず、最初に講演頂いたのは、平和活動支援センター所長の平野伸人さんで、「私のたどる平和活動の過去・現在・未来」というテーマでした。

「被爆2世」ということで「原爆によるもの」と認定されなかったことは憤りを感じました。一方で、加害者としての問題点も学習できました。

聞記者の報告は、僕は記者の役割は誹謗中傷もある中で大変だと思っていたので話を聞きながらすごい行動力のある方で興味を持ちました。記事にする大切さを学び自分の機関紙発行にも勇気をもらえました。

どの講演に対しても自分のこと比べ、そこまで平和に対して気持ちが入っていないのでしっかりと学習をしていかないといけないと感じました。

2日目は現地視察へ行きました。何度か見たところもある中で思い出しながら回れたことが今後もプライベートで訪れて勉強しようと思いました。

世界では戦争や紛争が起こっています。命の大切さを学び、助け合う大切さを今後も訴えていこうと思...

次に講演頂いたのは、長崎市長の池田章子さんで、「被爆体験者」は被爆者だ」というテーマでした。最初タイトルを見ただけでは何のことかわかりませんでした。被爆認定が自治体ごとで同心円のなかということでない事実には衝撃を受けました。

現在、「TUNAG」アプリ登録中!

◎国労は、情報発信アプリ「TUNAG」(つなく)を情報発信の中心にすることを決め、組合員への登録を推進しています。

—「TUNAG」(つなく)に登録さえすれば—

- ・スマートフォンやパソコンで、好きな時に見ることが出来ます。
- ・全国新聞を見る事が出来ます。
- ・全国の様々な活動が、このアプリ1つで見ることが出来ます。
- ・各エリアや地方本部のニュースも見る事が出来ます。
- ・お得なクーポン券を獲得することも出来ます。



TUNAG

これからは「TUNAG」アプリで、「紙」から「デジタル」へと移行し、「賃金アンケート」をはじめ活用の幅を広げていきます。

登録がまだ済んでいない方は、所属するエリア本部・地方本部に連絡して登録をお願いします。

貴重な報告に驚きと 感銘を受けた

北陸地方本部執行委員長 藤野 能章

広島の地には何度か訪れたことがあるものの、恥ずかし...

2日目は現地視察となりました。高崎本線浦上駅近くの高架下にある国鉄原爆死没者慰霊碑で式典を行いました。

浦上駅構内にあった国鉄原爆死没者慰霊碑が高架化によって現在の位置に移されたから初めてになります。

式典の後には数班に分かれて原爆遺構の視察、長崎原爆資料館の見学を行いました。



活動報告する長崎県の高校生平和大使

この節目の年に、このような機会を作ったいただきありがとうございます。

平和活動支援センター所長の平野信人さんの被爆2世の運動から高校生の平和活動の支援など、核兵器廃絶と世界平和を後世に伝える情熱あふれる運動、高校生平和大使皆さんの継続した署名や募金活動、国内外の高校生との交流、国際会議への参加、長崎市議会議員池田章子さんの被爆体験者に対する不当な扱い、毎日新聞社の竹林静さんの被爆問題を継承する上での記者としての役割など貴重な報告に驚きと感銘を受けました。

アメリカ力が原爆を投下したのは1945年2月のヤルタ会談で旧ソ連が対日参戦することが極秘に決められていたため、それ以前に原爆を投下して降伏させ、戦後優位に立ちたかったなどの理由があったといわれており、広島は目標都市の中で唯一連合国軍の捕虜収容所がないと思われていたこと。長崎は空襲の被害をあまり受けておらず威力や効果を確かめやすかったと言われている。侵略戦争を行った当時の日本と身勝手な理由で無差別の殺りく兵器を使用したアメリカ力両国にあらためて強い怒りを感じました。

自分なりに平和について考えられるように勉強していく

近畿地方本部 宮野 正貴

長崎平和学習で感じたことは小学生以来の平和学習であつたことです。社会人になり、国鉄労働組合に加入し、大会や委員会、各種集会で平和について、憲法9条の改憲についての議論をしていることは知っていましたが、そんなことを考える組合なんだなあ、どこか他人事のように感じていた。

組合員一人一人が「平和を願い」織り上げた千羽鶴を奉納

米子地方本部執行委員長 倉下 文明

1日目の学習会では、3人の方から講演を受け高校生平和大使からは取り組みの報告を頂きました。

講演では、国の責任で始めた無謀な戦争であるにもかかわらず、被爆者に対して謝罪も補償もしない国の姿勢に強い怒りと憤りを感じました。また、平和大使の皆さんの自分たちに出来る事を探して地道に取り組む姿勢に感銘を受けました。

2日目は、国鉄原爆死没者慰霊碑に献花をして、その後被爆地遺構を案内して頂きました。風圧で吹き飛ばされた神社の鳥居の半分、天主堂の大きな屋根を見て、原爆の威力を肌で感じる事が出来ました。平和記念公園では、世界恒久平和のシンボルとして建立された平和記念像の横にある「折鶴の塔」に米子地方

なつたことにあらためて感謝いたします。ありがとうございます。

何？被爆者じゃないのと考えていたが、講話を聞いていたうちに自治区で被爆者、被爆体験者と分けていることを知り、被爆体験者の方も被爆者と同じ症状が出ているのになんて無責任な考え方なんだと怒りを覚えた。また、高校生平和大使が各県にいくことも初めて知った。話の中で、隣国と平和交流をしていること。友達を国を攻撃しようとは思わないこと等の話も強く頭に残った。高校生がこれだけ平和について考えているのに私は平和について今まで考えていたのだからと恥ずかしく感じた。反

本日の組合員一人一人が「平和を願い」織り上げた千羽鶴を奉納して頂きました。視察学習会の最後は、原爆資料館の見学でした。子供たちの写真や手紙を読んで胸が詰まる思いがしました。今日も世界各地の戦争や紛争で人が傷つき、亡くなっています。そして、世界で唯一の被爆国である日本は、反核の使命を忘れ軍事大国化へひた走っています。

平和運動を継続し平和を希求し続ける

岡山地方本部執行委員長 勝田 哲也

長崎の地には青年部時代の2014年に西日本青年部と九州青年部との学習交流会で一度訪問しています。その時の写真を見返しながら当時のことを思い出して、今回改めて長崎の地を巡りました。私自身が当時と違ふことは結婚をして3人の子供を持ちました。資料館を訪れ子供の焼けただれた遺体、子供を火葬し茶毘にふす絵を見たとき、この小さな体でどんな恐

省するばかりである。毎日新聞の記者の講話でも勉強させられた。講話の中で原爆が落とされた広島、長崎だけが被災した場所ではないこと、隣接県も被災地なのだということに衝撃を受けた。話の中では、原爆についての語り部がいなくなっていることも話されていた。

今回の平和学習で、原爆の恐ろしさ、未だに被爆の後遺症で苦しんでいる方がおられる話などの講話を聞いて、改めて戦争の恐ろしさを考えさせられた。これからは、少しでも平和について考えられるように自分なりに勉強していくことを考えます。

やがて戦争へと繋がるのではないかと思えます。人間の尊厳は守られているか、人の生命は大事にされているか、常に目を凝らしながら活動していけたらと思えます。最後に、若手も含めて全国の仲間と交流できたことも大きな財産となりました。本部はもとより、九州エリアの皆さん、大変お世話になりました。

怖や痛みを感じたのだろうかと思うとこの文章を書いていく今も涙が溢れて止みません。子供のころは戦争なんてずっと昔の事で、平和な今とは違ふのだと思っていました。45歳になった今思うと、自分が生まれるたつた35年前のこと、今の平和は長い歴史の中でたつた80年ではいかに、いつまた戦火に巻き込まれてもおかしくはないのだと最近

はつくづく感じます。多くの方が声を上げ、行動し戦争をさせない運動を継続しているからこそ、今日の平和があるのだと思えます。しかしこれからはどうなるのだろうか。戦争を体験された方が少なくなる中、だんだんと過去の記憶は消えてゆき、また同じ過ちを繰り返すのではないかと危惧をしています。今回の学習交流会で高校生が平和大使として歴史や戦争の学習、平和へ取り組みをしていくことを初めて知りました。彼女らは原稿も読まず自分の思いや取り組みを力強く報告

とが羨ましくもありません。また、長崎では被爆しているにも関わらず行政区外だからと認定されず「被爆体験者」といった位置づけで差別がある現状が今なお解決して

対して持久戦とも取れる自治体、国、司法の判断に強く抗議したいと思えます。福島第一原発の事故が起きなければ、被爆体験者は被爆者として認められたかもしれない事を思うと、国、東電の責任は重大であり、核兵器の原料ともなる核のゴミを生み出す原発は即刻廃炉にすべきです。「絶対に安全」と国が謳うならなぜ東京湾に原発を建設しないのか、「絶対に安全」ではない事を物語っているのではないかと思えます。

「G7広島サミット記念館」が平和公園内に建設されるなど、反核勢力と好核勢力とのせめぎあい激烈になっている。広島地本被爆二世の会事務局長 徳永 聖

高校生平和大使のみなさんの発言に熱い感銘を受けました。出席された14名の平和大使全員が確信をもって活動されており、全員が活動の感想や意見を明快に発言されました。拍手！広島地本から私の発言とあわせて「折鶴ピンバッジ(1個500円)」を参加者に販売するよう託されていますが、14個は平和大使のみなさんにプレゼントしました。残ったバッジも夕食の際に完売しました。ご協力ありがとうございます。

核兵器禁止条約の署名国・締約国の増加や被爆協のノーベル平和賞受賞は私たちを大きく勇気づけていますが、一方で広島では、中学校の学

広島と長崎に原爆が投下された事を風化させてはならない

全国自動車協議会議長 岩山 淳

広島地本から3名で参加しました。個人的に長崎の地を訪れるのは、2回目になります。前回訪れたのは約30年前で、市内を本格的に回ったのは今回が初めてになります。原爆については、広島市民は幼少期からの平和学習もあり、8月6日、9日は広島市民なら誰でも知っている日です。しかし、現在の日本国民は広島と長崎に原爆が投下された日時を答えられる人が何人いるか、3・11の記憶も薄れてきている昨今を考えると無理もない話ですが、決して風化をさせてはならない重大な事であり、私たちは今の状況に危機感を持たなければなりませんと思えます。

今回の学習交流会で高校生平和大使の活動について報告を受けました。広島でも高校生平和大使が活動をしていますが、実際に活動についての話を聞く機会はなく、貴重な経験をさせて頂きました。彼女たちのしつかりとした考え、発言、海外派遣等の様々な活動内容は感銘を受けました。私たちの世代の後が如何に大切で尊い事かを後世に伝えてくれると信じ、活動に関する財政難に直面しているとの報告もあり、国

高校生平和大使のみなさんの発言に熱い感銘を受けました。出席された14名の平和大使全員が確信をもって活動されており、全員が活動の感想や意見を明快に発言されました。拍手！広島地本から私の発言とあわせて「折鶴ピンバッジ(1個500円)」を参加者に販売するよう託されていますが、14個は平和大使のみなさんにプレゼントしました。残ったバッジも夕食の際に完売しました。ご協力ありがとうございます。

核兵器禁止条約の署名国・締約国の増加や被爆協のノーベル平和賞受賞は私たちを大きく勇気づけていますが、一方で広島では、中学校の学

いないことも知りました。被爆者の平均年齢は85歳となり残された時間はわずかしかありません。一日も早い解決を願ってやみません。平和は当たり前ではありません。

今平和な日本は先人の方々の尊い犠牲のもとで成り立っている事を決して忘れる事なく、戦争をする国、戦争の出来る国へと舵をとる危険な自公政権を即刻、退陣に追い込むよう、来たる参議院選挙で自公政権に「NO」を突き付けましょう。

「G7広島サミット記念館」が平和公園内に建設されるなど、反核勢力と好核勢力とのせめぎあい激烈になっている。広島地本被爆二世の会事務局長 徳永 聖

高校生平和大使のみなさんの発言に熱い感銘を受けました。出席された14名の平和大使全員が確信をもって活動されており、全員が活動の感想や意見を明快に発言されました。拍手！広島地本から私の発言とあわせて「折鶴ピンバッジ(1個500円)」を参加者に販売するよう託されていますが、14個は平和大使のみなさんにプレゼントしました。残ったバッジも夕食の際に完売しました。ご協力ありがとうございます。

核兵器禁止条約の署名国・締約国の増加や被爆協のノーベル平和賞受賞は私たちを大きく勇気づけていますが、一方で広島では、中学校の学

こうした情勢下での「被爆80年視察学習交流会」は、ナガサキの地で意義深いものとなりました。いつか「ヒロシマ・呉・イワクニ」の情勢を学習交流する機会ができるようでしたらよろしくお願いたします。

防衛省は莫大な軍事費を確保し、南西諸島を中心とした九州全域で長射程ミサイル部隊の建設やオスプレイの配備を進め、民間空港・港湾の自衛隊使用も拡大しています。そこへの武器・弾薬・兵力・燃料を供給する兵站基地として自衛隊呉基地を拡張・強化するために、防衛省は日本製鉄呉跡地(130ha)を一括購入しようとしています。

防衛省は莫大な軍事費を確保し、南西諸島を中心とした九州全域で長射程ミサイル部隊の建設やオスプレイの配備を進め、民間空港・港湾の自衛隊使用も拡大しています。そこへの武器・弾薬・兵力・燃料を供給する兵站基地として自衛隊呉基地を拡張・強化するために、防衛省は日本製鉄呉跡地(130ha)を一括購入しようとしています。

防衛省は莫大な軍事費を確保し、南西諸島を中心とした九州全域で長射程ミサイル部隊の建設やオスプレイの配備を進め、民間空港・港湾の自衛隊使用も拡大しています。そこへの武器・弾薬・兵力・燃料を供給する兵站基地として自衛隊呉基地を拡張・強化するために、防衛省は日本製鉄呉跡地(130ha)を一括購入しようとしています。

防衛省は莫大な軍事費を確保し、南西諸島を中心とした九州全域で長射程ミサイル部隊の建設やオスプレイの配備を進め、民間空港・港湾の自衛隊使用も拡大しています。そこへの武器・弾薬・兵力・燃料を供給する兵站基地として自衛隊呉基地を拡張・強化するために、防衛省は日本製鉄呉跡地(130ha)を一括購入しようとしています。

